

(3) 2歳児

2歳児 実践事例

氷で遊ぼう (7月)

観点 (興味・関心)

視点 (意欲 ~おもしろそうだな~)

【遊びの経過】

部屋の壁面飾りに折紙とお花紙を使ってかき氷を作ったり、夏祭りに向けて大きなかき氷に見立てたちょうちんを作ったりする中で、子どもたちは氷や氷を使った飾りに興味をもち始めた。自分たちでもきれいな氷を作りたいという思いから、木の実や野菜を集めて氷を作るようになった。

【ねらい】

自分たちの作った氷に興味をもち、氷の感触を味わいながら遊んだり、気付きや発見を喜んだりする。

【評価】

- ・できあがった氷の固さや冷たさなどの感触を味わいながら遊んでいる。
- ・氷の様子や変化などの気付きや発見を表情や言葉で表現することを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

○氷の中に入れてほしい花や木の实・野菜を集め、氷を作る。



あの色がいいな。
【意欲】



ねえ、どっちの花がいい。【期待】

トマトやゴーヤも入れてみたい。【意欲】

- 氷作りへの興味・関心が高まるよう、花・野菜などの名前や色について会話を楽しんだり、においをかいでみたりするなど、楽しく氷作りができるようにする。
- 様子を見ながら、花や木の实、野菜などを集めていない子どもに声をかけ、氷の中に入れてほしいものを選べるようにする。

★氷をすくうもの(れんげ・お玉)や氷を入れる器やお皿を準備する。

★全員が氷に触ることができるように、製氷皿やたらいの数、遊ぶ場所や位置に配慮して、場を設定する。

○できた氷をさわって遊ぶ。

冷たいね。
【喜び】

つるつるしているよ。
【発見】



トマトが出てきた。
【驚き】【喜び】

氷が小さくなった。あっ、なくなった。
【気付き】

すべっちゃう。持てるかな。
【意欲】【集中】

水になっちゃった。
【驚き】【発見】

お玉ですくえるかな。
【チャレンジ】

- 氷での遊びに期待がもてるように、できあがった氷を見せ、子どもたちと一緒に製氷皿や牛乳パックから出す。
- 子どもたちの様子を見守りながら、一人一人の思いやしぐさを受け止め、共感して言葉にしたり遊びの仲立ちをしたりしていく。
- 氷に触るのに抵抗のある子には1対1でかかわり、保育者と一緒に触ったり、他児の遊ぶ様子を見たりするなど、少しずつ感触遊びに慣れるようにしていく。
- 遊びを見守りながら子どもたちの驚きや気付きに共感し、保育者も一緒に遊びを楽しむことで、氷の感触や状態の変化などについて気付いたことを安心して表現できるようにする。

★子どもの遊びが広がり、もっと遊びたいという意欲が高まるように、大きなたらいやビニールプールなどを子どもの目に触れるところに配置する。

○できた氷を使って遊ぶ。

【考察】

自分たちで作った氷に興味をもち、自分から触って喜んだり、変化に気付いて驚いたりしていた。また、氷に触ったりすくったり入れ物に入れたりするだけでなく、氷が溶ける様子や中の草花が出てくることに驚き、遊びながら楽しさや驚きなどの自分の気持ちをどんどん言葉で表現していく姿も見られていた。また、子どもたちの様子から、たらいやビニールプールを使った遊びに発展させていった。このことは、子どもが夢中になって遊びを楽しむのに効果的な環境の再構成だったと考える。子どもの願いを読み取り、ねらいの達成に向けて適切な援助(道具の数・大きさ、タイミング等)を行っていくことが大切である。

【遊びの経過】

子どもたちは、砂遊び、水彩絵の具の色水遊び、ボディーパーティンティングなどの遊びを経験する中で、体がぬれることや汚れることに慣れてきた。また、身近な植物に興味を持ち、不思議に思うことを言葉にする様子が見られ始めた。

【ねらい】

花びらや草などを使って色水を作ることを楽しむ。

【評価】

・容器やすりこぎ等を選んで、もむ、たたく、つぶすなどの遊びを、自分のやり方で楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★活動の見通しがもてるように、前もってアサガオやヨモギの色水を作って用意しておく。
- ★子どもが扱いやすい大きさの袋や容器をすぐ使えるように準備しておく。
- ★自分で花びらや草を摘んで、色水作りができるように、花や草のある場所を確認しておく。

○アサガオの花びらや草で色水ができる様子を見て、自分で色水を作る。

赤いの、紫の。
朝顔の花だ。
【気づき】

これ、何かな。
茶色だよ。
【探究心】



大きな葉っぱ
だったよ。
これぐらいの。
【発見】

- 植物から色がにじみ出る場面を見ることで、色水作りに興味・関心をもてるようにする。
- 植物の名前を知らせ、どんな色がにじみ出てきたのか、言葉にしなごら問いかけたり、子どもの発想やつぶやきに共感したりする。

★色水作りに必要な物をすぐに使えるように準備しておく。(すりこぎ、ビニール袋等)

○摘み取った花びらや草をビニール袋に入れて袋の上から指でもんだり、すりこぎでつぶしたりする。

もももみ。
【意欲】
【チャレンジ】



汁が出てきた。
【発見】

手についちゃった。
【葛藤】

おもしろいね。
【夢中】【没頭】



つぶれてきたね。【発見】

ミントのにおいがする。
【驚き】

- 初めて扱うすりこぎなどの用具には、保育者も手を添えるなど一緒に使っていくことで、安心して活動できるようにしていく。
- 子どもたちがつぶやく言葉に寄り添い、発見や喜びを言葉にしていくことで、友達の遊び方にも目が向くようにしていく。
- 子どもたちが花びらや葉の大きさ、匂いなどの変化や発見を友達に知らせようとする時は、できるだけ見守り、必要な時には仲立ちをして友達に伝えるなど、言葉のやりとりが発展するようにしていく。
- 袋の上から揉んだり、すりこぎを使ったりすることで、草花から色が出てくるおもしろさや発見を受け止め、遊びがより発展するように見守っていく。

【考察】

自分で草花をつぶして色水を作るのは初めての経験だったが、色々な道具を使いながら、集中して遊ぶ姿が見られた。また、揉んだりつぶしたりした後の草花の色や形の変化にも気づき、発見する喜びも味わっていた。この活動のあと、できあがった色水を使って、画用紙に指で絵を描く、ジュース屋さんごっこをするなどの遊びに発展し、遊びを広げていくことができた。今後も遊びの中の子どもたちの興味・関心を保育者が読み取り、子どもたちの思いの実現に向けた活動に発展するよう、環境の構成を工夫したり、再構成したりしていくことが重要である。

2歳児 実践事例

砂遊びをしよう

(8月)

観点 (興味・関心)

視点 (意欲 ~おもしろそうだな~)

【遊びの経過】

春は砂や玩具を使ったごちそう作りを楽しんできた。中には手が汚れることを嫌がる姿が見られる子どももあり、保育者と一緒に砂に触れるところから始め、徐々に楽しさを感じられるようかかわってきた。夏になり水を取り入れて遊ぶ中で、手や腕、足を使って思いきり砂遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

砂の感触を味わいながら、好きな遊びを楽しむ。

【評価】

・手やスコップを使い、自分のやりたい方法で山やトンネル等を作りながら砂に親しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★思い切り遊べるように、汚れてもよい服に着替えておく。
- ★遊びの展開を見てタイミングよく出せるよう、シャベルや水道ホース等を準備しておく。

○砂場に入って、砂の感触を味わう。

何をしようかな。
【期待感】

なかなか水が
流れないな。
【疑問】

さあ、
掘るぞ。
【意欲】



- 期待感をもって遊べるように、保育者が手をブルドーザーのように使い、楽しさを言葉や動きで表現しながら砂場に入るようにする。
- ゆっくりと時間をかけ、子どもが自分のやりたい遊びを進められるように見守り、声をかける。

- ★タイミングよく噴水することで興味・関心が高まるよう、山にホースをうめておく。

○自分のやりたい遊びを楽しむ。

水を流す



水が流れてきた。
【喜び】【驚き】

泥が動い
とる。
【発見】

すごいなあ。
【感動】



- 保育者も一緒になって遊びを楽しむとともに、子どもたちのつぶやきや発見を言葉にして伝えることで、自分もやってみたい、作りたいという気持ちを高めるようにする。
- 手や足の裏の感覚や視覚を通して、いろいろな気付きにつながるように、水の量や流すタイミングに変化をつけていく。
- 山作りでは、「大きな山を作りたい」という子どもたちの願いを受け止め、一緒に遊びを進めることで、様々なものを実現していく喜びを共に味わうようにする。
- トンネル作りでも、力を合わせて活動を進めている姿に励ましの言葉をかけながら、つながった達成感を味わえるようにしていく。

山を作る



大きいね。
【満足感】

シャベル山だ。
【見立て】

トンネルを作る



あっ、
手が出た。
【驚き】【喜び】

つなげよ
【意欲】【見通し】

【考察】

保育者が自ら遊びを楽しんでいる姿を見せたり、水や道具の活用、タイミングを図るなどして、適切な援助や環境の構成を行ったりすることで、子どもたちは、砂場で保育者や友達と一緒に安心してじっくりと活動していた。次第にもっとやってみたいとダイナミックな遊びへの欲求も出てきて、夢中になって砂を掘ったり水を流したりしながら砂遊びを楽しむことができた。このように、子どもの主体性が発揮できるような自然物や時間、場などを保障したり、子どもの気づきに共感したりすることに心がけ、子どもが意欲的に砂などの自然物にかかわるようにしていきたい。

2歳児 実践事例 「はらぺこあおむし」になって遊ぼう (9月)
 観点 (興味・関心) 視点 (表現 ~つたえたいな しりたいたいな~)

【遊びの経過】

友達や保育者との言葉のやりとりを楽しみながら、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊びを楽しんできた。「はらぺこあおむし」の絵本に親しみ、あおむしの好きな食べ物や、あおむしがちょうちょになることを知り、イメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

お話のイメージを膨らませ、友達や保育者と一緒に表現遊びを楽しむ。

【評価】

- 一人一人があおむしになって遊ぶ中で、知っていることやイメージしたことを伝えたり、友達や保育者とのやりとりを楽しんだりしている。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★あおむしの帽子をかぶり、気持ちを盛り上げていく。

★保育室の安全を確認する。

○「はらぺこあおむし」になって遊ぶ。

変身



あおむしさんは、ももご動くで。
【表現】【思考】

先生、見て。
【喜び】【自信】

食べ物見つけ



食べ物を探そう。
【意欲】【願い】

見つけたよ。
【楽しさ】【喜び】

かくれんぼ



どこだろうな。
【探究心】【期待】

見つけるぞ。【意欲】



チョコレートだ。食べよう。【喜び】

おいしいな。【表現】

ちょうちょに変身



いっぱい飛ぼう。
【意欲】【表現】

どこに行こうかな。
【想像】【期待感】

- 「あおむしは、どうやって動くのかな。」と問いかけ、一人一人の素直な表現を受け止めるとともに、褒めたり励ましたりしながら、興味をもてるようにする。
- 保育者も一緒になりきって遊ぶことで、動きや言葉で表現する楽しさを伝え、子どもたちの表現する意欲を高めていく。
- イメージが膨らむよう絵本のお話にそって遊びを進める。

- ★食べ物カードを並べ、わくわくするような環境をつくる。
- ★様子を見て、保育者がチョコレートに変身し、かくれた保育者を探して見つける遊びに展開できるようにしておく。

- 保育者がモデルになり、遊び方を簡潔に分かりやすく伝えた上で、食べ物カード探しをし、遊びへの意欲を高めていく。
- 子どもたちのわくわくする気持ちに寄り添い、一人一人の声に共感的な言葉で応えていくようにする。その際、保育者の言葉が多くならないようにする。
- 食べ物カードを見つけたり、食べる真似をしたりして自分なりに楽しんで表現する姿を受け止め、満足感を引き出すようにする。

- ★イメージがふくらむよう、変身用のちょうちょの羽を準備しておく。

- 「あおむしは、いっぱい食べて大きくなったら何になるのかな。」と問いかけ、子どもたちの「ちょうちょになる。」という言葉をきっかけに、みんなでちょうちょに変身して遊び、表現の変化を楽しめるようにする。
- 一人一人の子どもの発する言葉や思いを受け止め、喜びや満足感を共有していく。

【考察】

絵本に親しむことで、食べ物やあおむしが成長していく様子を知り、イメージを膨らませながら体を動かし、思い思いの表現遊びを楽しむことができた。友達や保育者との言葉のやりとりや動きを楽しんでいる子どもたちの様子を見ながら遊びを展開していくことで、子どもたちは、あおむしになりきって意欲的に遊ぶことができた。また、その姿を褒め、励ましたり認めたりすることで、より開放感をもって自分の気持ちを表出し、遊びを楽しむ姿につながった。これからも子どもの動きを予想して環境の構成、再構成をしていき、自分なりに表現する楽しさを十分に味わうことができるような援助の工夫を考えていきたい。

【遊びの経過】

人形遊びやごちそう作りでは、「行ってきます。」「ただいま。」「〇〇店で買ってきた。」など身近な生活を再現して笑顔で遊ぶ姿が見られる。最近では友達の発した言葉に応答するなど友達同士のやりとりが増えてきた。

【ねらい】

友達や保育者とやりとりをしながら一緒にごっこ遊びを楽しむ。

【評価】

・気の合う友達や保育者と一緒に玩具や言葉のやりとりをしながら、ごちそう作りや人形遊びなどの遊びを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★ごちそう作りや人形遊びに取り入れて遊びが展開するよう玩具や用具を見える所に置く。
★かかわりがもてるよう遊びのスペースを広く用意し、皿・茶碗・コップ・鍋などの道具は出し入れしやすく配置しておく。

〇好きなコーナーで遊ぶ。

＜ごちそう作りコーナー＞

何を作ろうかな。【期待】



はやく遊びたいなあ。【意欲】

〇〇ちゃん、一緒に遊ぼう。【人とのかかわり】



塩を入れよう。【好奇心】

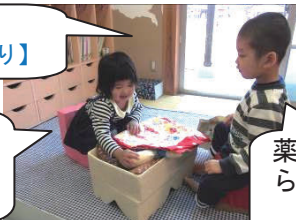
できたよ。【自信】



スパゲティーとコーヒーだよ。【満足感】

＜人形遊びコーナー＞

ただいま。【人とのかかわり】



熱が出たんだって。【思いやり】

薬をあげたらいいが。【提案】

■自分で進んで道具を見つけたり遊び始めたりする子どもを見守りつぶやきに共感していく。

■「また食べたいなあ。」「次は、〇〇をください。」などとやりとりが膨らむような言葉かけをし、友達とかかわって遊ぶうれしさや楽しさを味わえるようにしていく。

■遊びが見つからず友達の遊んでいる様子を見ている子どもには、「ジュースをください。」「何を作ったの。」などの言葉かけでやりとりのきっかけをつくっていく。

■「赤ちゃん、うれしそうだね。」「ちゃんと服を着ているかなあ。」「熱が出ちゃったのかな。」「大丈夫かな。」など遊びのイメージが広がるように言葉かけをしていく。

■優しく人形の世話をする姿を認め、まわりの友達にも言葉や貸し借りなどのやりとりができるように広げていく。

【考察】

ごちそう作りを始める子どもや人形のお世話をする子ども、友だちになりたい役を伝え役割を決めてから遊び始める子どもなど、それぞれがしたいことを見つけて遊んでいたが、言葉や動作によって玩具や道具の貸し借りが成立する場面も増え、遊び方や友達との関わりも広がってきた。また、友達との遊んでいる姿に共感し、真似たり一緒に遊び方を工夫したりする姿も見られた。今後も一人一人の子どもが、どのように友達への興味や関心をもってかかわろうとしているかなどを見取りをしっかり行い、友達とつながる楽しさを味わえるように遊びの様子を見守りながら、環境構成の工夫や適切な援助を心がけたい。